

試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名：観光・直売に適するイチジク品種の剪定強度とマルチの効果			
[要約]「バナーネ」は粘質土では幼木時の剪定を弱くすると早期に主枝が長くなり、結果枝本数が増えることで収穫量を確保できる。「ホワイトゼノア」は黒マルチや稲わらマルチで畦上部を被覆することで生育が良好となる。			
キーワード イチジク、観光・直売、剪定強度、マルチ処理、土壌			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・生産技術部・果樹研究室 協力機関 農林総合研究センター・育種研究所・果樹育種研究室、産業支援技術研究所・食品化学部、長生農林振興センター		
実施期間	2006年度～2009年度		

[目的及び背景]

イチジクの生育は土壌条件により大きく異なるため、長生地域の粘質土の水田転換畑を対象とした栽培技術を確立する。多収性で、品質・食味に優れ、観光・直売に適する品種「バナーネ」及び「ホワイトゼノア」を供試し、「ホワイトゼノア」ではマルチ資材が生育に及ぼす影響について明らかにする。

[成果内容]

- 1 粘質土で栽培する「バナーネ」は、主枝先から発生した新梢の枯死部分のみを剪除（強度：弱）すると早期に主枝が長くなり、主枝以外の結果枝となる新梢の本数が確保されて幼木時の収穫量が増加する（データ省略）。主枝先から発生した新梢の50%を剪除（強度：強）すると主枝長が短くなり、主枝以外の結果枝となる新梢の本数も少なくなる。同様に25%を剪除（強度：中）すると中間の傾向となる。定植4年目ではいずれの剪定強度でも収量及び収穫時期、果実品質に大きな差はない（表1）。
- 2 粘質土における「ホワイトゼノア」の幼木時の生育は、いずれのマルチでも主枝先から発生する新梢の伸長は良好となる（表2）。稲わらまたは黒マルチで畦上部を被覆すると新梢の身長は良好となる。マルチの有無及び種類による幼木時の収穫量に差はない（表3）。

[留意事項]

- 1 粘質土における試験結果であり、「バナーネ」、「ホワイトゼノア」ともに土壌条件により結果が異なるので注意する。
- 2 「ネグローネ」など樹勢の弱い品種については未検討である。

[普及対象地域]

長生地域（粘質土の水田転換畑）

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 粘質土における剪定強度の違いによる「パナーネ」幼木時の年次別主枝長及び定植4年目の生育と果実品質

剪定の強度	主枝長 (c m)				定植4年目の生育と果実品質							
	2006年	2007年	2008年	2009年	主幹		主枝先以外の新梢			果実品質		
					直径 (mm)	直径増加率 (%)	直径 (mm)	長さ (cm)	本数 (本)	収穫量 (kg/樹)	平均果重 (g)	果汁糖度 (Brix%)
弱	157 c	215 b	292 b	292	89	108	19 a	89 a	12.3	11.1	80	17.6
中	108 b	216 b	274 b	298	85	108	19 a	92 a	12.0	10.8	77	16.9
強	73 a	139 a	211 a	295	81	118	23 b	117 b	9.3	9.9	83	16.5
有意性	*	*	*	n.s.	n.s.	n.s.	*	*	n.s.	n.s.	n.s.	

- 注 1) 栽培条件：畝間 2.5m、株間 3 m、片側 1 本植え、施肥は 3 年目から施肥基準に基づき、窒素 15kg/10a、りん酸 13kg/10a、加里 14kg/10a 行った、以下同様
 2) 主枝長は剪除後の枝長を 4 月に測定
 3) 異なる文字間には Tukey 多重比較 (p < 0.05) で有意差あり、n.s. は有意差なし

表 2 粘質土におけるマルチの種類の違いによる「ホワイトゼノア」幼木時の年次別新梢伸長量

マルチの種類	主枝先から発生した新梢長さ (c m)			主枝先以外の新梢長さ (c m)			主枝先以外の新梢直径 (c m)		
	2006年	2007年	2008年	2007年	2008年	2009年	2007年	2008年	2009年
透明ビニル	103	109 ab	133	104 a	122 a	95 a	21.9 a	22.5	19.3 a
黒色ビニル	134	140 ab	165	132 bc	130 ab	114 ab	25.8 ab	24.7	23.0 b
稲わら	101	176 b	180	148 c	145 b	124 b	28.4 b	25.3	22.6 b
無	67	92 a	165	110 ab	135 ab	113 ab	21.5 a	24.9	21.4 ab
有意性	n.s.	*	n.s.	*	*	*	*	n.s.	*

- 注 1) 剪定前の 12 月に測定
 2) 異なる文字間には Tukey 多重比較 (p < 0.05) で有意差あり、n.s. は有意差なし

表 3 粘質土におけるマルチの種類の違いによる定植4年目の「ホワイトゼノア」果実品質 (2009年)

マルチの種類	収穫量 (kg/樹)	収穫果数 (果/樹)	平均果重 (g)	収穫期			果肉硬度 (kg)	果汁糖度 (Brix%)
				始	盛	終		
				(月/日)	(月/日)	(月/日)		
透明ビニル	3.0	45	67	8/31	9/23	10/22	0.33	17.7
黒色ビニル	2.4	39	61	9/ 3	9/25	10/18	0.37	18.3
稲わら	3.7	55	69	9/13	10/10	10/27	0.33	18.4
無	3.4	43	78	9/ 6	10/ 7	10/23	0.37	18.4
有意差	n.s.	n.s.	n.s.					

注) 有意差の n.s. は Tukey 多重比較 (p < 0.05) で有意差なし

[発表及び関連文献]

[その他]

平成 17 年度試験研究要望課題 (提起機関：長生農林振興センター)